shindaiwa

エンジンポンプ

GP250
GP410
GP411
GP500
GP500H
GP800

取扱説明書

●必ずお読みください。

新ダイワ工業株式会社

＊＊取扱説明書の補足 （エンジンポンプ用） 部品番号23000－900110

＊安全にお使いいただくために（必ずお読みの上、ご使用願います）

この取扱説明書には、使用に際して、特に重要な内容を ⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 のマークを使用して表現してあります。このマークは以下の意味を持ちます。

⚠危険：守らないと、死傷又は重大な人身事故となる。
⚠警告：守らないと、死傷又は重大な人身事故となる危険性がある。
⚠注意：けがをする危険性があり、状況によっては、重大な結果に結びつく可能性がある。

いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守って下さい。
お読みになった後は，お使いになる方が、いつでも見られる所に必ず保管して下さい。

機械を他人に貸す場合、この取扱説明書も貸与し、安全上の注意を伝えて下さい。

＊安全にお使いいただくために（エンジンについて）

⚠警告

作業前に、エンジンの取扱説明書を読み、内容を確認してから、使用のこと。

火災事故防止

・燃料・オイル補給時には、エンジンを止めること。
・燃料・オイル取扱い時には、火気を近づけないこと。
以上のことを守らない場合、燃料・オイルは非常に引火しやすく危険な液体なので、火災の原因になります。

感電事故防止

・エンジンのプラグ周囲には触れないこと。
電気ショックを受け感電事故の原因になります。

排気ガス事故防止

・換気の良いところで使用のこと。
排気ガスには、有害な成分が含まれており、死亡事故の原因になります。

やけど事故防止

・マフラー・エンジン本体は、運転中はもとより、停止後もしばらく触れないこと。
この部分は高温になるので、やけど事故の原因になります。

【注意】・ガソリンは変質します。
（長期保管時、この特質が各所に悪影響を及ぼし、機械不具合の原因となります。
取り扱い、保管は、エンジンの取扱説明書の内容を守って下さい。）
・出力は推奨する定格範囲以内でご使用願います。
（最大出力で、連続運転はできません。
機械に対する負担が大きすぎる為、破損してしまいます。）
・４サイクルエンジンは、使用前にオイルを給油して下さい。
又、オイルは定期的に補給して下さい。

＊安全にお使いいただくために（エンジンポンプについて）

⚠注意

・作業前に、エンジンポンプの取扱説明書本文を読み、内容を認識してから、使用のこと。

・このポンプの使用目的は「水」に限定します。

・各部の穴に、手や物を入れないこと。

これらが巻き込まれた場合、ケガの原因となります。

・運転時は、吐水ホースの先端を必ず固定すること。

噴き出す水の勢いで吐水ホースが動き回り、ケガの原因となります。

・運転時、呼水プラグと水抜プラグは、しっかり締め付けて使用のこと。

これらの締付けがゆるい場合、プラグが飛び出しケガの原因となります。

・使用後は、子供の手の届かない場所に保管して下さい。

【注意】・この機械に貼りつけたラベルが、汚れた場合・はがれた場合、
新しいものを入手して貼り変えて下さい。
・水の吸込口のストレーナーは目詰まりなきよう清掃して下さい。
・運転前に、ボルト・ナット、ネジ類等のゆるみがないかを調べ、ゆるんでいれば
締め付けて下さい。
・吐水ホース側に設けるバルブを急激にふさがないで下さい。
また、吐水ホースは、通過車両に踏みつけられない位置に設置して下さい。
ホースをタイヤが踏みつぶすことで、吐水側を急激にふさいだことになり、
ポンプ内の圧力が異常に高まり、ポンプが破損する原因になります。

＊安全にお使いいただくために（単体ポンプについて）

⚠注意

・作業前に、単体ポンプについている取扱説明書本文を読み、内容を認識し使用のこと。

・上記のエンジンポンプに関する注意を守った上、次の内容も遵守して下さい。

・ベルトの可動部分には、必ずプーリーカバーを取り付けて使用して下さい。

・回転方向は必ず表示の矢印に従って下さい。

逆回転させると、ポンプが破損しケガの原因となります。

＊安全にお使いいただくために（モーターポンプについて）

⚠注意

・作業前に、モーターポンプについている取扱説明書本文を読み、内容を認識し使用のこと。

・上記のエンジンポンプに関する注意を守って下さい。

はじめに

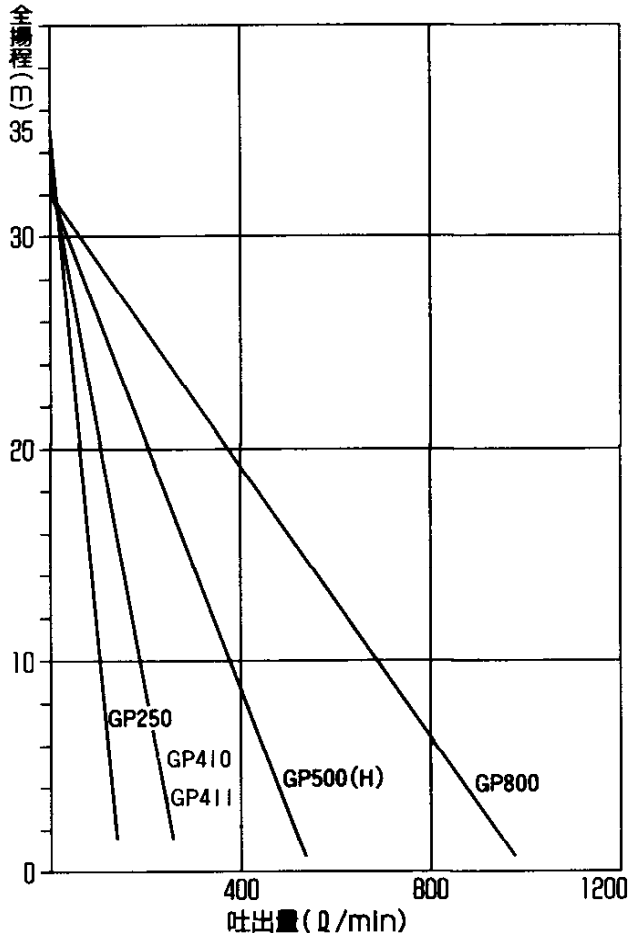
このたびはエンジンポンプをお買い上げいただきありがとうございました。
このエンジンポンプを末永くご愛用いただくために、ご使用の前に必ずこの取扱説明書をよくお読みくださいますようお願いいたします。

1．仕　様

Model		GP250 1″×1″	GP410 GP411 1½″×1½″	GP500 2″×2″	GP500H 2″×2″	GP800 3″×3″
口　径　mm		25×25	40×40	50×50	50×50	80×80
最大揚程 m		35	33	32	32	32
吸込揚程 m		8.5	8.5	8.5	8.5	8.0
最大揚水量 ℓ/min		110	220	520	520	1000
エンジン	新ダイワ工業	S250P 1.3PS	—	—	—	—
	ロビン	—	EY08D 2.0PS/4200rpm	EY15D 3.5PS/4000rpm	—	EY20D 5.0PS/4000rpm
	ホンダ	—	—	—	G×120 4.0PS/4000rpm	—
外形寸法(長・巾・高)mm		335×225×350	370×265×350	500×355×420	500×355×420	525×365×420
重　量　kg		5.8	16.0	25.5	25.5	33

★外形寸法・重量は、取付エンジンにより多少異なります。

2．性能曲線



★ホンダエンジン付の場合、(H)参照。

3．運転準備

1．燃　料

(1) 燃料の選定

2サイクルエンジン……混合ガソリン(ガソリン：2サイクル専用オイル＝25：1)をご使用ください。

4サイクルエンジン……レギュラーガソリンをご使用ください。

(2) 燃料の注入

燃料タンクに燃料を入れてください。

（注意）危険ですのでエンジン運転中に燃料を入れないでください。

2．エンジンオイル(4サイクルエンジン)

(1) エンジンオイルが入っているかチェックしてください。

気　温　℃	オイル粘度 SAE
30	#40
15	#30
0	#20

(2) エンジンを水平にして正規油面まで補給してください。

(3) 定期的にオイルを補給して下さい。

3．自　吸　水

(1) ポンプケーシングが一杯になるまで呼び水をしてください。

（注意）ポンプ内に水を入れずに運転しますと、メカニカルシールの摩耗を早め、自給いたしませんので特に注意してください。

4．吸水ホース・吐出ホースの操作

(1) 吸水ホースをポンプ吸水口に確実に取りつけてください。

(2) 吐出ホースをポンプ吐出口に確実に取りつけてください。

（注意）吸水ホースの先端に必ずストレーナーを取り付けてください。吸水側の各接続部からの空気もれのない様、確実に締めつけてください。

4．始　動（GP250は別紙参照）

1．エンジン燃料コックのレバーをOPENの位置にします。

2．調節レバーをSTARTの位置にします。

3．チョークレバー操作

(1) エンジンが冷えている時：チョークレバーを冬期は全閉、夏期は½の位置にします。

(2) 一度暖まったエンジンを再始動する時：チョークレバーを全開のまま始動します。

4．始動(リコイルスターター)

(1) スターターロープを圧縮のところまで軽く引き一担戻してから勢いよく引張ってください。エンジンが始動するまでそれをくり返してください。

5．運　転（GP250は別紙参照）

1．3～5分暖気運転をしてください。

2．エンジンが暖まりましたら、調整レバーを操作して、作業に必要な回転数のところでレバーを固定します。

6．停　止（GP250は別紙参照）

1．作業の一時停止

(1) 調整レバーを一番下まで下げてからしばらく低速で運転し、停止ボタンを押します。

2．長時間停止

(1) 長い時間使用しない時は、停止ボタンを押さずに燃料コックを閉じます。気化器の中の燃料がなくなるまで回ります(2～3分)が、しばらくすると停止します。

7．ポンプの手入れ

1．毎日の点検

(1) ボルト・ナット・ネジ類等のゆるみ等がないか調べます。

(2) 燃料及び潤滑油のもれがないか調べます。

2．100～150時間毎の手入れ

(1) ケーシングを取りはずして内部を水で洗い清掃してください。(必要に応じて)

(2) エンジンの潤滑油をエンジンの暖かいうちに交換します。

(3) エヤークリーナーのふたをはずしてスポンジを取り出し、ガソリンで洗浄後よくしぼり、エンジンオイルに浸し固くしぼって使用してください。

(4) スパークプラグを取りはずして清浄し、すきまを0.6～0.7㎜に調整します。(必要に応じて)

(5) ボルト・ナット・ネジ等の増し締めを行ないます。

8．使用しない時の保管方法

1．ポンプのドレンプラグからポンプ内の水を完全に抜き取ります。

2．燃料タンク及び気化器から燃料を完全に抜き取ります。

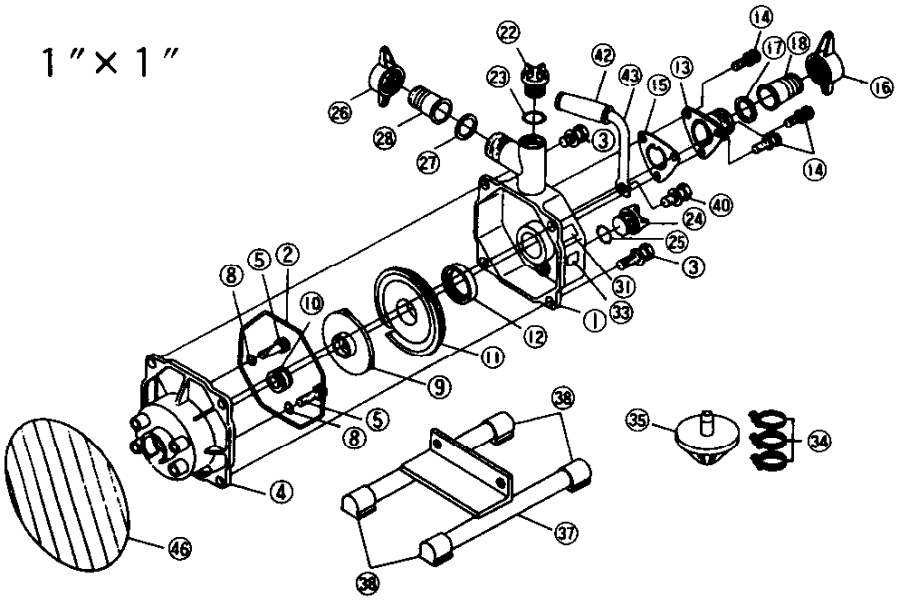
3．湿気や砂・塵埃等の少ない場所にカバーで覆って保管してください。

9．トラブル対策

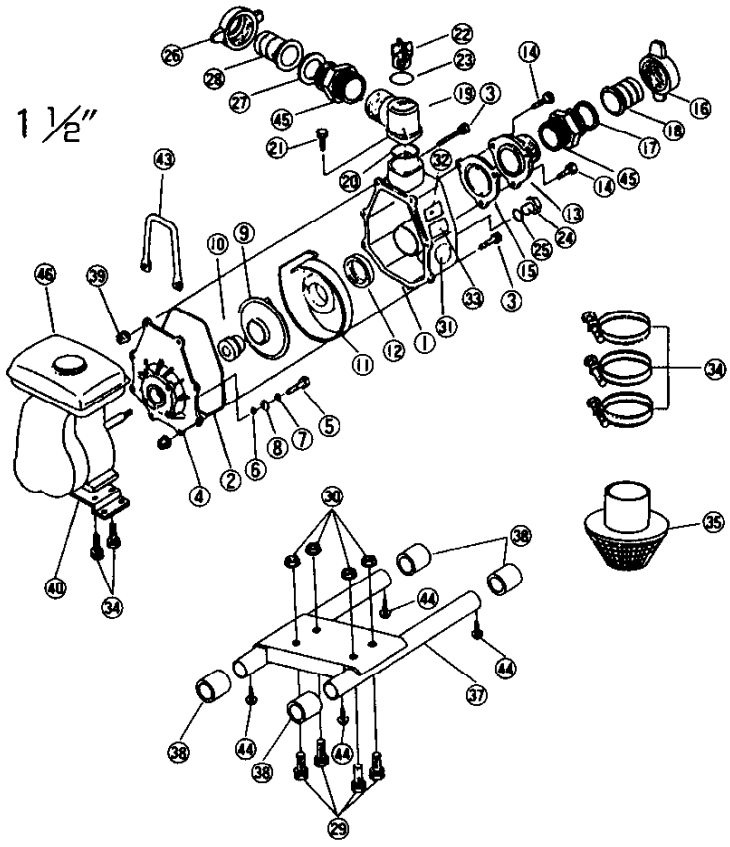
ポンプが揚水しない場合	対　　策
①自吸水が不足している	呼び水を追加
②回転が遅い	エンジン回転を上げる
③ストレーナーがつまっている	きれいに清掃する
④吸水ホースがやぶれている	とりかえる
⑤吸水ホースの接続部からの空気漏れ	さらに強く締めつける
⑥極端な吸水揚程	適切な位置に直す
⑦ポンプ内のゴミ、異物等による循環水不足	ポンプ内を洗浄し、呼び水を入れる

10. 展　開　図

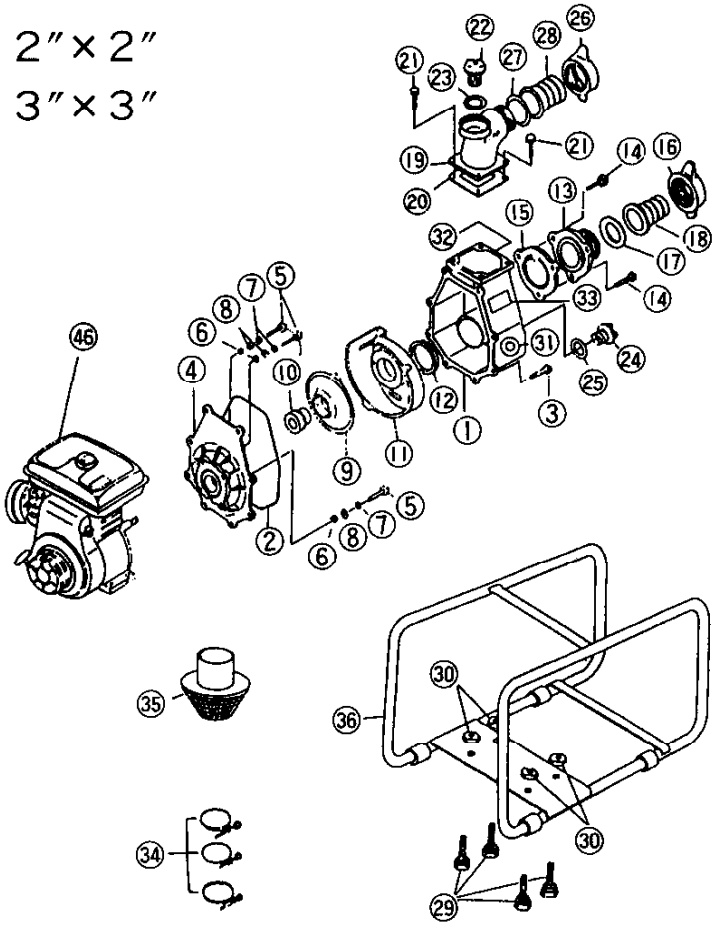
1″×1″



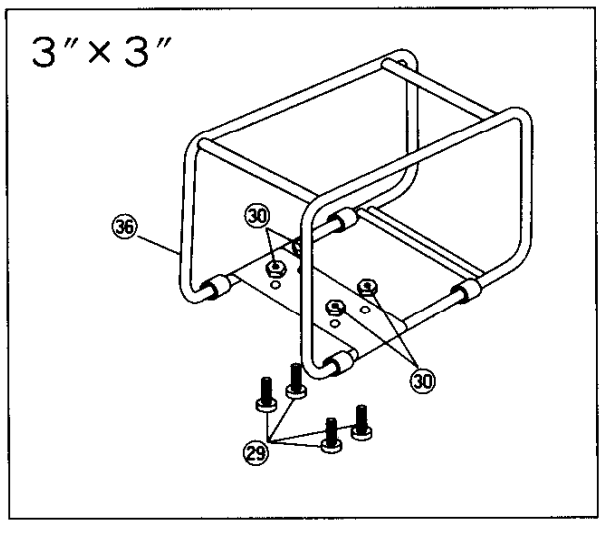
1½″×1½″



2″×2″
3″×3″



3″×3″



11. 部　品　表

	品　　名	1″×1″	個数	1½″×1½″	個数	2″×2″	個数	3″×3″	個数
1	ケーシング	252−001	1	402−001	1	502−001	1	802−001	1
2	パッキン(ケーシング)	252−002	1	402−002	1	502−002	1	502−002	1
3	ボルト	253−050	4	501−014 401−025	4 2	501−014	8	501−014	8
4	ケーシングカバー	253−004	1	402−004	1	502−004	1	502−004	1
5	ボルト	251−005	4	501−005	4	501−005	4	501−005	4
6	シールパッキン	—	—	501−006	4	501−006	4	501−006	4
7	バネ座金	—	—	501−007	4	501−007	4	501−007	4
8	平座金	251−008	4	501−008	4	501−008	4	501−008	4
9	インペラー	253−009	1	401−009	1	501−009	1	801−009	1
10	メカニカルシール	251−010	1	401−010	1	501−010	1	501−010	1
11	インナーケーシング	253−011	1	401−011	1	501−011	1	802−011	1
12	パッキン(インナーケーシング)	252−012	1	401−012	1	501−012	1	801−012	1
13	バルブケース	251−013	1	401−013	1	501−013	1	801−013	1
14	ボルト	251−014	3	251−014	3	501−014	3	801−014	3
15	逆止弁	251−015	1	401−015	1	501−015	1	801−015	1
16	ホースジョイント	251−016	1	401−016	1	501−016	1	801−016	1
17	パッキン(ホースカップリング)	251−017	1	401−017	1	501−017	1	801−017	1
18	ホースカップリング	251−018	1	401−018	1	501−018	1	801−018	1
19	吐出ベンド	—	—	401−019	1	501−019	1	801−019	1
20	パッキン(ベンド)	—	—	401−020	1	501−020	1	801−020	1
21	ボルト	—	—	251−014	2	501−014	4	501−014	4
22	呼び水プラグ	501−021	1	501−021	1	501−021	1	501−021	1
23	パッキン(呼び水プラグ)	501−022	1	501−022	1	501−022	1	501−022	1
24	水抜きプラグ	501−021	1	501−021	1	501−021	1	501−021	1
25	パッキン(水抜きプラグ)	501−022	1	501−022	1	501−022	1	501−022	1
26	ホースジョイント	251−016	1	401−016	1	501−016	1	801−016	1
27	パッキン(ホースカップリング)	251−017	1	401−017	1	501−017	1	801−017	1
28	ホースカップリング	251−018	1	401−018	1	501−018	1	801−018	1
29	ボルト	—	—	401−034	4	501−023	4	501−023	4
30	ナット	—	—	501−024	4	501−024	4	501−024	4
31	ネームプレート	251−025	1	401−028	1	501−025	1	801−025	1
32	注意書ラベル	—	—	401−026	1	501−026	1	501−026	1
33	性能ラベル	253−027	1	401−027	1	501−027(H)	1	801−027	1
34	ホースバンド	251−028	3	401−032	3	501−028	3	801−028	3
35	ストレーナー	255−029	1	405−033	1	505−029	1	805−029	1
36	フレーム	—	—	—	—	501−030(H)	1	801−030	1
37	ベース	253−036	1	401−036	1	—	—	—	—
38	防振ゴム	253−031	4	401−038	4	—	—	—	—
39	ナット	—	—	1001−024	6	—	—	—	—
40	ボルト	—	—	—	—	—	—	—	—
41	ハンドルグリップ	253−052	1	—	—	—	—	—	—
43	キャリングハンドル	253−035	1	401−030	1	—	—	—	—
44	タッピングスクリュー	—	—	401−037	4	—	—	—	—
46	エンジン	—	1	—	1	—	1	—	1

※2″×2″の場合ホンダエンジンの時は(H)参照